

## 自己評価および外部評価結果

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念に基づき、事業所独自の理念を作っている。毎年、新年度の事業計画を職員全員で考え、職場内の目のつきやすい所に掲示をして実践につなげている。	法人の理念をもとに事業所の理念を職員と検討し、設定しています。また、理念を実践できるようユニット内に掲示し、毎年度の事業計画でも具体的な落とし込みを行っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お祭りのお神輿や山車が施設玄関前に来て楽しませて頂いている。町内会の新年会に参加したり、お互いの防災訓練にも行き来している。地域向けの広報誌も年6回発行し回覧している。地元の保育園児や小学生の訪問もあり、交流をさせてもらっている。	広報誌を定期的に発行し、地域に回覧し情報を発信しています。また、地域の祭りの際は屋台神輿に敷地内に入ってもらったり、保育園児や小学生がホームに来てくれたり、地域の清掃活動にも参加するなど、積極的に地域とのふれあいが心がけられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、取り組み状況の報告を行い、グループホームや認知症の人を理解してもらえるよう働きかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、事業所の取り組み状況などを報告し、貴重なご意見も頂いており、サービス向上に反映できるよう努めている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、町内会長、民生委員、ご利用者代表、ご家族代表、民生委員、駐在署員、地域包括支援センター職員から出席してもらっています。参加者へ事業所の状況報告を行い、会議で頂いた意見はしっかり受け止めて向上するように努力しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点などは電話で相談や報告を行い連携を取っている。	地域包括支援センター職員には運営推進会議にも参加していただき、アドバイスを頂いているほか、地域ケア会議にも参加しており、不明な点については連絡を取り連携が図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を行い、どのような行為が身体拘束にあたるのか、職員の意識統一を図っている。身体拘束廃止委員会を発足し定期的に委員会を開催している。	事業所で身体拘束についての研修を行い周知徹底をしているほか、身体拘束廃止委員会を定期的に開催しており、身体拘束をしないケアを実践しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての勉強会を行い、全職員が参加して日々のケアの中で注意を払い、虐待防止に努めている。	身体拘束研修と同じく、事業所にて虐待防止についての研修を行い周知徹底しているほか、職員の言葉遣いについても気付いた時に指導するなどし、虐待の防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を設けている。研修会の開催を行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所の方針やご家族の役割などをお伝えし、ご家族の疑問点に納得して頂けるような説明を行った上でご理解・ご協力を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、日頃から入居者との会話の中から、意見・要望を聞く機会を作っている。また、家族の面会時等にお聞きした意見や要望は、職員へ周知しサービスの反映に努めている。	運営推進会議の場だけでなく、面会時や電話連絡の際などに気付いたことや要望は無いか確認しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々のミーティング、個人面談を実施して、職員の意見や悩みを聞く機会を設け、改善に繋げる努力をしている。	定期的に個人面談を行い、個人の要望や悩みを聞いています。人事異動の希望についてもアンケートを実施しているほか、日常の業務の中で職員から改善提案があれば、職員会議の場で職員同士で検討が行われ、改善されています。	調査時点で職員会議録の回覧確認の押印欄が押されていない箇所がありましたので、今後改善されることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいや意欲を持って働けるように、人事考課制度を活用している。また、年に1回希望勤務地や希望職種などアンケート形式で意向確認して職場環境への反映に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内や事業所内で各種研修会を計画し、多くの職員が参加できるように努めている。また、外部の研修にも参加する機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の4グループホームで管理者会議を定期的開催し、意見交換を実施している。また、4グループホームで成功事例発表会を行いサービスの質の向上に繋げている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で本人の生活状況を把握し、本人、家族の希望を聞いている。その際には本人の立場を踏まえ、不安解消に繋がれるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの経緯やご家族の苦労について、十分に話を聞くように努め不安や要望を遠慮なく話してもらい、要望に対して事業所としてどこまで対応できるかを説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行い、本人、家族の要望を聞き、可能な限りプランに取り入れ支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者目線を第一にし、暮らしやすい環境づくりに努めている。日常生活で入居者が「出来ること」を見極め、分からないことは教えてもらいながら、共に生活する関係づくりに努めている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の状態や変化を、こまめに家族に報告・相談し、ご本人を尊重した援助ができるよう努めている。また、個別の近況報告や広報誌を送付する等して、情報の共有を図っている。	事業所広報の「おたて通信」をご家族に送付しているほか、年に2回個別の近況報告もお送りする等、日頃からよくご家族とコミュニケーションが取れており、受診・外出・外食の支援もご家族の協力をいただくなど、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人からの面会があり、一緒に外出や外食をしたりする方も見られる。また、行きつけの美容院を利用する方もおられ、馴染みの人や場所との関係を維持できるよう援助している。	ご家族の協力も得て自宅やお墓参りへ出かけたり、行きつけの美容院に行かれるご利用者もおられます。また、友人に面会に来て頂くなど、今までの関係継続支援に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係について、職員間で情報交換し、場面場面で配慮した働きがけを心かけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られる時には、これまでの生活状況、サービスの内容や留意事項等、情報の提供を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の確認と日々のかかわりの中で、思いや意向の把握に努めている。表現が困難な方については、表情や行動から意向を汲み取るように努力している。	日々のケアの中での表情や会話の中から思いの把握が行われており、ケアプランの検討に活かされています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、家族にどのような生活環境だったか確認し普段の会話などからも以前の暮らし方の把握に努めている。	入居時にご本人やご家族からの聞き取りにてこれまでの暮らしの把握が行われ、ご本人の生活歴や嗜好を確認しています。また、居室担当者により状態の変化時には、情報の見直しも行われています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調観察を行ない、体調に合わせて本人の望まれるような過ごし方を支援できるよう職員間で連携を取っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議で、ケアの現状の確認や方法について話し合っている。ケアプラン変更時には、本人・家族の意向確認を行い、現状に即した介護計画を作成している。	モニタリングは担当介護職員が毎月行っており、定期的にサービス担当者会議を実施し、ご利用者・ご家族の意向を確認し、ケアプランの検討を行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアプランの実施状況は、生活記録に記載して職員間で情報の共有を図っている。介護計画について月1回モニタリングを行い、見直し時に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	複合型施設であるので、お互い行き来をして交流深めている。身体状況に合わせ入浴設備を利用することも可能であり、幅のある支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に、地域包括支援センターの職員や地域の方に参加して頂き、地域資源の把握に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医や希望の病院へ受診してもらっている。緊急時や必要時は受診に付き添い、普段の様子を伝えてたり、主治医宛に経過報告もしている。	かかりつけ医はご本人の希望するかかりつけ医となっており、受診時は原則ご家族が付き添いますが、必要に応じ職員が同行し、医師との状況の確認が行われているほか、ご利用者の情報をまとめ医師に渡すなどの情報提供も行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	高齢者の体調変化についての研修を実施し、些細な体調の変化を見逃さないよう、常に職員間で入居者の状態の変化を共有し早期発見に努めている。何かあれば看護師に相談できる体制ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院された際には、家族や医療機関に普段の生活状況を提供し、退院前には医療機関に状態確認を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には施設としての方針を説明しており、対象の方が出られた場合、その時の健康状態にあわせ、家族と今後のあり方を相談し、家族や本人の望みが事業所としてどこまで対応可能かどうか、確認しあう場面を設ける事としている。	契約段階で事業所の「看取りに関する指針」をもとに管理者はホームの方針を伝えているほか、ご利用者の状態に合わせてご家族と話し合いの場を設けています。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、研修を行ない、また消防署の普通救命講習を年1回ずつ実施し、全ての職員が対応できるようにしている。	毎年、消防署職員より普通救命講習を受けているほか、事業所でも緊急時の対応について研修を行う等、急変時に適切な初期対応ができるようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間を想定した避難訓練を定期的に行い、職員の防災意識を高めている。また、地域住民参加の合同の避難訓練も計画している。	水害や夜間の火災を想定した避難訓練や駆けつけ訓練を定期的に行なっているほか、地域の防災訓練にも参加し、災害時に適切な対応がとれるようにしています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重しプライバシーを守り、誇りを傷つけないように言葉かけに配慮している。	事業所でも接遇研修を行い、言葉かけ等が馴れ合いにならないよう、ご本人の人格を重視したケアが行えるように徹底されています。また、広報やブログへの写真の掲載についても契約の際に確認をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で、入居者ご本人の意向を自然な形で選ぶ事ができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の気持ちやその日の体調に併せ、塗り絵や計算問題等できる事を尊重して、個々の希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服装を選ぶ事ができない方に対しては、その方の好みを意識し、その方らしい身だしなみを支援している。希望のある方は、施設での理髪や顔そりを行なう事もできる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みや希望を取り入れながら、メニューを作成し、一緒に調理や片付けを行っている。職員も一緒に食卓を囲み、会話しながら食事をしている。旬の食材を使い食事の提供を行ったり、外食に出かけ目先を変えて食の楽しみを支援している。	ご利用者にもできる範囲で調理や後片付けも行ってもらっているほか、レストランに外食に出かけたり、誕生日の方には好みに合わせてメニューを組むなどし、食事を楽しんで頂けるように取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じ、食事量や食事形態を調整しながら食事提供をしている。希望の方には夜間の水分補給用として、枕元にお茶を用意させて頂いている。また、夏季には麦茶やポカリスエットを用意して、水分補給を働きかけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、それぞれの状態に合わせて口腔ケアの声かけや見守り介助を行ない清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄確認や介助が必要な方には介助を行い、排泄状況を職員全員が把握・共有している。介助を拒否される方には、タイミングを見計らい回りの方に配慮しながら支援している。	必要なご利用者の方には排泄チェックを行ない職員のさり気ない見守りや声かけで、一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表をもとに、個々の排泄パターンを確認し、水分摂取を心がけると共に、野菜・果物・乳酸菌の食品の食事を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の希望を確認し、希望に沿うように入浴して頂いている。拒否する方にはタイミングを見計らい、不安を取り除く声かけをして誘導するようにしている。冬期には入浴剤を取り入れ、リラックスして頂きながら楽しい入浴を心がけている。	ご利用者の希望に添った時間帯に合わせて入浴支援しています。入浴を嫌がるご利用者に対しても、職員間で誘導の時間帯等を検討し、入浴を楽しんでいただけるようになっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの生活リズムを尊重し、朝の起床も無理強いせず、個々の入居者の体調に応じて、休息できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個々のファイルに保管し、内容を把握できるようにしている。日頃きちんと服薬されているか、症状に変化はないか常に確認し、用法や用量の相談を看護師を通し主治医に確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の会話の中から、一人ひとりの嗜好の把握に努め、また家事などを一緒に行なう事で役割を持っていただき張り合いのある生活につなげている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの流行の影響で、外食や家族との外出も出来ない状況ですが、少人数でのドライブに出掛け気分転換を図っていただいている。	ご利用者と一緒に天候に合わせて散歩に出かけたり、季節に合わせて神社への初詣、お花見やハス見学などの外出も実施しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手元にお金を持っておられる方も何人かいらっしゃり、希望されれば一緒に買い物に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば電話をかけ話して頂き、ご家族からの電話の時にも、本人に取り次いでいる。また携帯電話を持っておられる方もおられ自由に電話できる環境にある。手紙に関しては年賀状や季節の便り等届いた時には本人にお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内に季節感のある装飾をしたり、それぞれの趣味に合った本や塗り絵等いつでも自由に使えるよう設置してある。	リビングは併設する小規模多機能事業所と繋がっており、広々としており開放感があります。和室がありくつろげる雰囲気もあり、季節に合わせて作品も飾られ、季節感も感じられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外を眺められるよう、窓際にソファを設置し安らげるような環境を作ったり、なるべく気の合う入居者同士で過ごせるよう配慮も行なっている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく本人の馴染みのある家具や置物を使用し、使いやすい配置に心がけている。また、けがの危険がある所も随時確認しけがの無いよう配慮している。	居室にはタンスやテレビ、ラジオなど、使い慣れた物を自宅から持ち込んでもらっています。また、ホームでの写真やご家族の写真、カレンダーを飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりの「出来ること」「わかること」は何かを知り、共有し合い安心かつ自立した生活が送れるよう支援している。		

**V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				